

# 歯科医学総合講義 3 : 541-3-DP1・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7・DP8

年次	学期	学則科目責任者
3年次	後学期	3年次学年教育主任

学修目標 (GIO) と単位数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位数：2単位</li> <li>・学修目標 (GIO) : 社会の要請に応えることができる歯科医師となるための基礎知識と応用する柔軟性を身につけ、これまでの講義や実習で学んだ内容を統合および整理する。3年次後期は6年間の学修の五合目に至るという自覚を高め、2年次科目の基本項目を振り返りながら、3年次の学修項目の総まとめをする。</li> </ul>
担当教員	*久山 佳代、五十嵐 由里子、河野 哲朗、*川島 雄介、谷本 安浩、山根 潤一、*齋藤 真規、*多田 充裕、*有川 量崇、*小林 平、竹内 麗理、加藤 治、平塚 浩一、*木本 統、*大久保 昌和、*神尾 直人、*中山 洋平、*平山 聡司、齋藤 美雪、*末光 正昌、*平原 尚久、*伊東 浩太郎
教科書	各講義担当者の指示に従うこと。 各科目指定教材による。 各科目指定教材による。
評価方法 (EV)	定期試験の成績を評価点とする。定期試験で成績が正答率65%に満たない者に対しては再試験を実施する。合格基準は65%とする。 ただし、当該学年に配置された全科目のうち、授業時間数の1/5以上を欠席した科目が1科目以上ある者は、再試験を受ける資格が与えられない。 定期試験を欠席し追試験を希望する者は、速やかに正当な理由を証明する書類を提出すること。審議の上、追試験の受験資格の有無を決定する。 平常試験は1回行う。平常試験は形成的評価であり、進級判定には用いない。 平常試験の再試は実施しない。
学生へのメッセージ オフィスアワー	歯科医師になるために求められる知識のうち、3年次までの学びを総括・整理する。教科書および参考図書は、2年次および3年次の各科目で使用したものを使用する。 顎口腔機能治療学は資料配布のみとするため、各自で学修すること。

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/09/19 (木) 1時限 09:00~10:30	歯科医学総合講義 3 (病理学1, 病理学2)	<p>【授業の一般目標】 病理学総論の概念(病理学1)を理解し、病理学2で学修した疾患の病因と病態を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 6大疾患に分類できる(病理学1)。 3. 循環障害、代謝障害、炎症、腫瘍、奇形で学んだ基本的用語を説明できる(病理学1)。 4. 口腔奇形・嚢胞を列挙できる(病理学2)。 5. 硬組織疾患、歯髄・歯周疾患の形態学的所見を説明できる(病理学2)。 6. 腫瘍を分類し、病理組織学的所見を説明できる(病理学2)。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 【準備学修項目】病理学1、2で学んだ学修項目 【準備学修時間】30分 【事後学修項目】不得手な疾患の分類と病理組織像を確認する。 【準備学修時間】60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングによる能動的学修有、病理学実習書、301教室その他</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 a 健康・疾病の概念</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 2 口腔・顎顔面領域の疾患の病因・病態 ア 主な病因・病態 a 先天異常 b 歯・歯周組織の疾患 c 口腔粘膜の疾患 d 軟組織の疾患 f 唾液腺の疾患 g 口腔・顎顔面領域に症状を伴う全身疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-1) 病因論と先天異常 ①染色体、遺伝子及び発生の異常を説明できる。 C-5-6) 腫瘍 ⑤良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。 E 臨床歯学</p>	*久山 佳代

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/09/19 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (病理学1, 病理学2)	E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (3) 炎症 ⑦口腔・顎顔面領域の肉芽腫性炎の種類と特徴を説明できる。 E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患 ①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。 E-2-4) - (5) 嚢胞 ①口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の種類と特徴を説明できる。 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ②口腔・顎顔面領域に発生する良性腫瘍の一般的な症状、診断法(細胞診、組織診、画像診断)及び治療法を説明できる。 ③口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法(細胞診、組織診、画像診断)及び治療法を説明できる。 ④腫瘍類似疾患の種類と特徴を説明できる。 ⑤前癌病変の特徴、症状及び治療法を説明できる。 E-2-4) - (8) 唾液腺疾患 ④唾液腺腫瘍の種類、特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。	*久山 佳代
2019/09/26 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (解剖、組織・発生学)	【授業の一般目標】 歯科医学に必要な頭頸部および胸腹部内臓の各器官系の構造(マクロ・ミクロ)を学習する。  【行動目標(SBOs)】 1.細胞の構造を説明できる。 2.組織の構造を説明できる。 3.各器官系(消化器系・呼吸器系・泌尿器系)の構造を説明できる。 4.調節系(神経系・内分泌系)の構造を説明できる。 5.循環器系の構造を説明できる。 6.骨系・筋系の構造を説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 【準備学修項目】2年次で使用した教科書のうち、解剖学の教科書や人体解剖学図譜で各器官系の構成に関する範囲を熟読すること。組織学では人体を構成する4種の組織の分類と特徴、口腔組織に関する範囲を熟読すること。  【準備学修時間】60分 【事後学修項目】配布プリントおよび教科書を照らし合わせて熟読しまとめること。 【準備学修時間】60分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングによる能動的学修:無 学修媒体:マルチメディア、プリント配布  【学修方略(LS)】 講義  【場所(教室/実習室)】 301教室  【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 5 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系(骨格系(関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系(脈管系)、消化器系(歯および唾液腺を含む)、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系)  【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (3) 筋組織と筋系 ③全身の主要な筋の肉眼的構造、作用及び神経支配を説明できる。 C-3-4) - (4) 血液・リンパと循環器系 ②血液循環(肺循環、体循環及び胎児循環)の経路と主要な動静脈の名称を説明できる。 C-3-4) - (5) 神経系 ①末梢神経系の種類、走行及び支配領域を説明できる。 C-3-4) - (7) 消化器系 ①消化管の基本構造、消化機能及び調節機構を説明できる。 C-3-4) - (8) 呼吸器系 ①気道系の構造と機能を説明できる。 C-3-4) - (1) 上皮組織と皮膚・粘膜系 ①上皮組織の形態、機能及び分布を説明できる。 C-3-4) - (2) 支持組織と骨格系 ②結合(支持)組織の分類と構成する細胞と細胞間質を説明できる。 C-3-4) - (5) 神経系 ⑦ニューロンとグリアの構造と機能を説明できる。 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-1) 歯と歯周組織の発生及び構造と機能 ④歯(乳歯、根未完成歯、幼若永久歯を含む)の硬組織の構造、機能及び構成成分を説明できる。 ⑥歯周組織の発生、構造及び機能を説明できる。	五十嵐 由里子 河野 哲朗
2019/10/03 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (歯科放射線学 1, 2)	【授業の一般目標】 2年生、3年生で学んできたことを復習する。  【行動目標(SBOs)】 1.臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2.エックス線の発生と歯科用エックス線撮影装置について説明できる。 3.放射線の影響、放射線の防護と管理について説明できる。 4.放射線の生物学的影響について説明できる。 5.放射線治療について説明できる。	*伊東 浩太郎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/10/03 (木) 1時限 09:00~10:30	歯科医学総合講義 3 (歯科放射線学 1, 2)	<p>6. 口内法エックス線検査について説明できる。 7. パノラマエックス線検査について説明できる。 8. 口外法エックス線検査について説明できる。 9. 歯科用コンビームCTについて説明できる。 10. CT、MRI、超音波検査について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：放射線学1および放射線学2で配布したプリント、放射線学実習書 準備学修時間：60分 事後学修項目：授業で配布したプリントおよび国試問題 事後学修時間：90分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングによる能動的学修、スライド</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VI 検査 2 画像検査 コ 画像の鑑別診断 a 正常画像と主要疾患画像</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 10 検査・臨床判断の基本 カ 画像検査 a 放射線の性質と作用 c 放射線の防護・管理 歯科医学総論 総論VI 検査 2 画像検査 エ エックス線単純撮影 b 口内法エックス線検査 c パノラマエックス線検査</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-2) 画像検査を用いた診断 ①放射線の種類、性質、測定法と単位を説明できる。 ⑥口内法エックス線検査の種類と適応及びパノラマエックス線検査の適応を説明できる。 ⑦口内法エックス線画像とパノラマエックス線画像の読影ができる。 ⑧顎顔面頭蓋部エックス線検査の種類及び適応を説明できる。 ⑨造影検査法、超音波検査法、コンピュータ断層撮影法 (computed tomography &lt;CT&gt;)、歯科用コンビームCT、磁気共鳴撮像法 (magnetic resonance imagin g &lt;MRI&gt;) 及び核医学検査法の原理と基本的特徴を説明できる。</p>	*伊東 浩太郎
2019/10/10 (木) 1時限 09:00~10:30	歯科医学総合講義 3 (歯科材料学1、 歯科材料学2)	<p>【授業の一般目標】 歯科材料が歯科医療に果たす役割 (歯科材料学1) について理解し、さらに歯科材料の性質、成形法および臨床における応用 (歯科材料学2) に関する知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 歯科生体材料・歯科材料および歯科用器械に関して、それらの種類および性質について説明できる。 2. 歯科生体材料・歯科材料および歯科用器械に関して、それらの臨床応用について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：歯科生体材料・歯科材料の素材別による区分および臨床との係わり合いについて教科書および配布プリントを確認する。 事前学修時間：60分 事後学修項目：配布したプリントを中心に、歯科材料の基本的性質から臨床への応用について整理する。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングによる能動的学修、301教室その他</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 セ 歯科材料・機器 a 基本的性質</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VIII 歯科材料と歯科医療機器 2 診療用器械・器具 イ 切削・研削工具、研磨材 5 成形修復・予防填塞・歯内療法用材料 イ 予防填塞用材料</p>	谷本 安浩

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/10/10 (木) 1時限 09:00~10:30	歯科医学総合講義 3 (歯科材料学1、 歯科材料学2)	<p>a 根管充填材 6 歯冠修復・義歯用材料 ア 高分子材料 a 加熱重合型アクリルレジン、常温重合型アクリルレジン 7 成形技術・機器 ア レジンの成形技術・機器 a 加熱重合 b 常温重合 (流し込み成形) a 鋳造工程 エ CAD/CAM 10 歯科矯正用材料 ア 線材料 11 口腔インプラント・口腔外科・歯周治療用材料 ア 口腔インプラント用材料</p> <p>【コアカリキュラム】 D 歯科医療機器 (歯科材料・器械・器具) D-1 歯科医療機器 (歯科材料・器械・器具) の特性と用途 ①歯科医療機器 (歯科材料・器械・器具) の所要性質と用途を説明できる。 ②材料の物理的 (力学的性質と熱的性質を含む)、化学的 (溶解性を含む)、 生物学的 (生体活性、副作用を含む) 性質とその評価法を説明できる。 ③診療用器械・器具の構造と特性を説明できる。 D-2 歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法 ①成形修復・予防充填用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説 明できる。 ②歯冠修復・義歯用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明で きる。 ③接着・合着・仮着用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明 できる。 ④歯科矯正用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。 ⑤口腔インプラント・口腔外科・歯周治療用材料の種類、用途、成分・組成、 特性、操作方法を説明できる。 ⑥歯内療法用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。</p>	谷本 安浩
2019/10/17 (木) 1時限 09:00~10:30	歯科医学総合講義 3 (薬理学1、薬 理学2)	<p>【授業の一般目標】 薬理作用・薬物と医薬品・薬物動態・薬物治療の基本的知識 (薬理学1) を理 解し、薬理学2で学修した様々な疾患に適用する薬物の基本的な知識を習得す る。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 薬理作用・薬物と医薬品・薬物動態について説明できる。(薬理学1) 2. 薬物治療の基本的知識を説明できる。(薬理学1) 3. 中枢神経系・末梢神経系に作用する薬物を説明できる。(薬理学2) 4. 血液に作用する薬物を説明できる。(薬理学2) 5. 呼吸器系・循環器系に作用する薬物を説明できる。(薬理学2) 6. 抗菌薬・消毒薬を説明できる。(薬理学2) 7. 口腔領域に現れる副作用・有害作用を説明できる。(薬理学2)</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：薬理学1、薬理学2で学んだ学修項目 準備学修期間：60分 事後学修項目：配布したプリント等を理解し、説明できるようにする。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：マルチメディア、プリント配布</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VII 治療 8 薬物療法 ウ 疾患に応じた薬物治療 b 抗炎症薬 c 抗感染症薬 f 止血薬、抗血栓薬 必修の基本的事項 8 主要な症候 エ 薬物に関連する口腔・顎顔面領域の症候 a 歯の変色、歯肉肥大(歯肉増殖)、多形(滲出性)紅斑、抗腫瘍薬による口 内炎、歯交代現象(歯交代症)に伴う症候、顎骨壊死、唾液分泌量減少・増加、 味覚異常</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 ⑤薬物の併用 (協力作用、拮抗作用、相互作用) を説明できる。 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ②薬物動態 (吸収、分布、代謝、排泄) について、加齢、病態による違いや薬 物の相互作用による変化を含め、説明できる。 C-6-4) 薬物の副作用と有害作用 ①薬物の一般的副作用と有害事象を説明できる。</p>	山根 潤一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/10/17 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (薬理学1、薬理学2)		山根 潤一
2019/10/24 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (医療行動科学3, 4, 5, 6, 細菌学)	<p>【授業の一般目標】 細菌学：微生物と感染症の関連性および免疫の仕組みを学修する。 医療行動科学：全人的歯科医療を実践するために患者の権利と尊厳（医療行動科学3, 4）を理解し、医療行動科学5, 6で学修した患者－医療者関係における医療者の役割を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 細菌、真菌およびウイルスの基本的性状を説明できる。 3. 細菌、真菌およびウイルスにおける感染症について説明できる。 4. 免疫機構について説明できる。 5. アレルギーについて説明できる。 6. 医療プロフェッショナリズムについて説明できる。 7. 医の倫理に関する規範・国際規範を説明できる。 8. インフォームドコンセントの定義と重要性を説明できる。 9. 患者－医療者関係での医療者の役割を説明できる。 10. 一般歯科医院における歯科訪問診療・在宅歯科医療について概説できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目： 細菌学：①細菌、真菌およびウイルスの病原性と感染症 ②自然免疫、獲得免疫およびアレルギー 医療行動科学：①プロフェッショナリズム ②インフォームド・コンセント ③在宅歯科医療 準備学修時間： 細菌学：60分 医療行動科学：40分 事後学修項目： 細菌学：講義内容について復習する。 医療行動科学：講義配布資料の項目について復習する。 事後学修時間： 細菌学：60分 医療行動科学：40分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングによる能動的学修、301教室その他</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム イ 歯科医師と患者・家族との関係 a 患者中心の歯科医療（インフォームドコンセント、セカンドオピニオンなど）</p> <p>【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-1 プロフェッショナリズム A-1-2 患者中心の視点 ①患者の権利を説明できる。 ④インフォームド・コンセントの意義と重要性を説明できる。</p>	*齋藤 真規 *多田 充裕
2019/10/31 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (衛生・公衆衛生学, 医学統計学)	<p>【授業の一般目標】 衛生・公衆衛生学で学修した健康を左右する環境や健康に関わる地域の役割を理解し、医学統計学で学修した疫学の方法を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 健康の概念を理解できる。 2. 疫学の定義および方法を説明できる。 3. 健康と環境（空気・水・地球環境・廃棄物等）について説明できる。 4. 感染症について分類し予防方法について説明できる。 5. 食品と健康について説明できる。 6. 統計解析、保健統計について理解できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：衛生・公衆衛生学、医学統計学で学んだ学修項目 準備学修時間：30分 事後学修項目：衛生・公衆衛生学、医学統計学で学んだ学修項目 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングによる能動的学修、301教室その他</p> <p>【学修方略（LS）】 演習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 予防と健康管理・増進 イ 地域保健にかかる法規と制度 a 地域保健法、健康増進法、歯科口腔保健の推進に関する法律</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学</p>	*有川 量崇

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/10/31 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (衛生・公衆衛生学, 医学統計学)	B-1 健康の概念 ①健康、障害と疾病の概念を説明できる。 ②口腔と全身の健康との関連を説明できる。 ③栄養と食育を説明できる。 B-4 疫学・保健医療統計 B-4-1) 歯科疾患の疫学 ②スクリーニング検査を説明できる。 ③歯科疾患の疫学的指標を説明できる。 B-4-2) 保健統計 ②主な保健医療統計 (歯科疾患実態調査、国民健康・栄養調査、国勢調査、人口動態調査、患者調査、医療施設調査、医師・歯科医師・薬剤師調査、学校保健統計調査等) を説明できる。 ③主な健康指標 (平均寿命、平均余命、新生児・乳幼児死亡率等) を説明できる。 ④調査方法と統計的分析法を説明できる。	*有川 量崇
2019/11/07 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (予防歯科学)	【授業の一般目標】 予防歯科学で学修した歯・口腔の健康と予防を理解し、各ライフステージの予防歯科サービスの基本的な知識を習得する。  【行動目標 (SBOs)】 1. 口腔清掃法について理解できる。 2. 歯磨剤と洗口剤について説明できる。 3. 齲蝕の予防について理解できる。 4. ライフステージごとの口腔保健管理について理解できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：予防歯科学で学んだ学修項目 準備学修時間：30分 事後学修項目：予防歯科学で学んだ学修項目 事後学修時間：180分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングによる能動的学修、301教室その他  【学修方略 (LS)】 演習  【場所 (教室/実習室)】 301教室  【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 4 予防と健康管理・増進 ウ 予防手段 b 保健指導  【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-3 予防と健康管理 B-3-1) 予防の概念 ①疾病の自然史と第一次、第二次及び第三次予防を説明できる。 ②プロフェッショナルケア、セルフケア及びコミュニティケアを説明できる。 ③プライマリ・ケアとヘルスプロモーションを説明できる。 ④感染性疾患と非感染性疾患の予防の違いを説明できる。 B-3-2) 歯科疾患の予防と健康管理 ①主な歯科疾患 (齲蝕、歯周疾患、不正咬合) の予防を説明できる。 ②齲蝕予防における予防填塞及びフッ化物の応用方法を説明できる。 ③ブラークコントロールの意義と方法を説明できる。 ④ライフステージに応じた歯科疾患の予防を説明できる。 ⑤歯科疾患のリスク因子を説明できる。	*有川 量崇
2019/11/14 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (歯科補綴学1・クラウンブリッジ補綴学)	【授業の一般目標】 歯や歯質の欠損に伴う、障害の種類と病態に応じたクラウンの選択と製作過程ならびに口腔内装着の手順を説明できる。  【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 歯や歯質の欠損に伴う障害の種類と病態を説明できる。 3. クラウンの要件について説明できる。 4. クラウンの分類について説明できる。 5. クラウンの製作過程を説明できる。 6. クラウンの装着過程を説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：クラウンブリッジ補綴学第5版の講義範囲の学修 準備学修時間：1時間 事後学修項目：講義のレジュメ 事後学修時間：1時間  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングによる能動的学修、301教室その他  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 301教室  【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論IV 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 3 クラウンブリッジによる治療 ア クラウンブリッジの設計  【コアカリキュラム】	*小林 平

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/11/14 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (歯科補綴学1・ クラウンブリッジ 補綴学)	E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (1) クラウンブリッジによる治療 ①クラウンブリッジの意義と具備条件を説明できる。 ②クラウンブリッジの種類、特徴及び製作法 (CAD/CAM を含む) を説明できる。 ③支台築造の意義、種類及び特徴を説明できる。 ④支台歯形成の意義と方法を説明できる。 ⑧クラウンブリッジの製作に必要な材料の基本的操作を説明できる。 ⑩クラウンブリッジの装着方法を説明できる。 ⑫クラウンブリッジの維持管理の目的と方法を説明できる。 ⑬クラウンブリッジ装着後のメンテナンスの重要性を説明できる。	*小林 平
2019/11/21 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (生化学・生理 学)	【授業の一般目標】 機能系基礎医学である生理学・生化学の理解を深めるために、全般的に総復習 を行い全体の流れを学習する。  【行動目標 (SBOs)】 1. 歯の硬組織の組成と機能を説明できる。 2. 齲蝕の成り立ちを説明できる。 3. 唾液の成分と機能を説明できる。 4. 炎症の機序を説明できる。 5. 細胞外基質を説明できる。 6. 血圧調節機構を説明できる。 7. 自律神経の作用を臓器別に説明できる。 8. 興奮性細胞における活動電位の違いを説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：2年生で配布したプリントの総復習 準備学修時間：4時間 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングによる能動的学修、301教室  【学修方略 (LS)】 演習  【場所 (教室/実習室)】 301教室  【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 5 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 a 生体構成成分の構造・機能  【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 5 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系 (骨格系 (関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、 消化器系 (歯および唾液腺を含む)、造血管系、泌尿器・生殖器系、神経系、 内分泌系、感覚器系)  【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (4) 血液・リンパと循環器系 ③血管の構造と血圧調節機能を説明できる。 C-3-4) - (5) 神経系 ③交感神経系と副交感神経系の構造と機能を説明できる。 C-2 生命の分子的基盤 C-2-4) 細胞の情報伝達機構 ③主な細胞外マトリックス分子の構造と機能、合成と分解を説明できる。 C-5 病因と病態 C-5-5) 炎症 ②炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-2) 口腔領域の構造と機能 ⑤唾液の性状、構成成分及び機能を説明できる。 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 ④口腔細菌、プラーク (口腔バイオフィーム) 及び歯石を説明できる。	平塚 浩一 竹内 麗理 加藤 治
2019/12/05 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (歯科補綴学1・ 全部床義歯補綴学)	【授業の一般目標】 歯の欠損、顎骨・顔面の欠損に伴う障害の種類と病態に応じた可撤性義歯の設 計と製作過程を説明できる。  【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 歯の欠損、顎骨・顔面の欠損に伴う障害の種類と病態を説明できる。 3. 全部床義歯の治療手順を説明できる。 4. 全部床義歯の技工操作を説明できる。 5. 全部床義歯装着装着後のトラブル解決方法を述べることができる。  【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：無歯顎補綴治療学第3版の講義内容部位を自学自習する。 事前学習時間：60分 事後学修項目：授業時配布資料を用いた内容確認と整理 事後学修時間：30分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】	*木本 統

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/12/05 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (歯科補綴学1・ 全部床義歯補綴学)	アクティブラーニングによる能動的学修、301教室その他  【学修方略 (L S)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 3 0 1 教室  【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 5 全部床義歯による治療 ア 義歯の設計  【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 5 全部床義歯による治療 イ 臨床操作 b 印象採得  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-3) 口腔・顎顔面領域の発生と加齢変化 ④口腔・顎顔面領域の老化と歯の喪失に伴う変化を説明できる。 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (2) 可撤性義歯 (部分床義歯、全部床義歯) ③可撤性義歯の特徴と適応症を説明できる。 ④可撤性義歯の要素構成と支持、把持、維持の機構を説明できる。 ⑤可撤性義歯の設計原則を説明できる。 ⑥可撤性義歯製作のための印象採得・咬合採得に用いる材料と方法を説明できる。 ⑦歯の欠損した歯列での下顎位・下顎運動の記録法を説明できる。 ⑧調節性咬合器の基本的操作方法、フェイスボウトランスファー、チェックバイト法を説明できる。 ⑨人工歯の選択を説明できる。 ⑩可撤性義歯の咬合様式とその意義を説明できる。 ⑪可撤性義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を説明できる。	*木本 統
2019/12/12 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (歯科補綴学1・ 部分床義歯補綴学)	【授業の一般目標】 歯の欠損、顎骨・顔面の欠損に伴う障害の種類と病態に応じた可撤性義歯の設計と製作過程を説明できる。  【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 歯の欠損、顎骨・顔面の欠損に伴う障害の種類と病態を説明できる。 3. 部分床義歯の設計の原則を説明できる。 4. 部分床義歯の構成要素を説明できる。 5. 部分床義歯の製作過程を説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：歯学生のパーソナルデンチャー全範囲、スタンダードパーシャルデンチャー補綴学全範囲、 準備学修時間：3時間 事後学修項目：行動目標が達成されているか自ら確認すること 事後学修時間：3時間  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング無、301教室  【学修方略 (L S)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 3 0 1 教室  【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 4 部分床義歯による治療 ア 義歯の設計 a 設計の原則  【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 4 部分床義歯による治療 ア 義歯の設計 b 義歯の構成要素 a 前処置 b 印象採得 d フレームワークの試適 e フレームワークの製作  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (2) 可撤性義歯 (部分床義歯、全部床義歯) ①歯の欠損、顎骨・顔面の欠損に伴う障害の種類と病態を説明できる。 ②可撤性義歯の種類、目的及び意義を説明できる。 ③可撤性義歯の特徴と適応症を説明できる。 ④可撤性義歯の要素構成と支持、把持、維持の機構を説明できる。	*大久保 昌和

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/12/12 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (歯科補綴学1・ 部分床義歯補綴学)	⑤可撤性義歯の設計原則を説明できる。 ⑥可撤性義歯製作のための印象採得・咬合採得に用いる材料と方法を説明できる。 ⑫可撤性義歯の製作過程を説明できる。	*大久保 昌和
2019/12/19 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (歯科保存学1・ 歯内療法学)	<p>【授業の一般目標】 歯内療法の知識をより深めるために、歯科治療における歯内療法の位置づけを明確にし、診断・治療の概要について統合的に理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 歯髄炎・根尖性歯周炎の病態について説明できる。 3. 歯髄保存療法について説明できる。 4. 歯髄除去療法について説明できる。 5. 感染根管治療について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：3年次の歯内療法全般 準備学修時間：1時間 事後学修項目：配布資料 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングなし パワーポイント</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 2 歯髄疾患、根尖性歯周疾患 ア 歯髄疾患・根尖性 歯周疾患の病因と病態 a 歯髄疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 ②歯髄・根尖性歯周疾患の病因と病態を説明できる。</p>	*神尾 直人
2020/01/16 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (歯科保存学1・ 歯周治療学)	<p>【授業の一般目標】 歯周疾患の病因と病態を理解し、その病因に対応した歯周病治療を学習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 正常歯周組織を図説できる。 3. 歯周疾患の病因を説明できる。 4. 歯肉炎および歯周炎の病態を説明できる。 5. 歯周疾患のリスクファクターを列挙し、それに対応した歯周基本治療を選択、説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：正常歯周組織の図を確認し、歯肉炎および歯周炎における変化も確認する。 臨床歯周病学をもちいて、歯周疾患の病因 (リスクファクター) を確認する。 準備学修時間：60分 事後学修項目：歯周組織の組織学的構造を理解した上で、歯周疾患の病態を説明できるようにし、その病因とそれに適した歯周基本治療を選択、説明できるようにする。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 歯科医師国家試験抜粋のプリント、解説およびパワーポイント、301教室</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 3 歯周疾患 ウ 歯周疾患の治療 b 歯周基本治療</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 3 歯周疾患 ア 歯周疾患の病因と病態 c 歯周炎 d 歯周炎のリスクファクター e 壊死性歯周疾患 f 合性外傷 h 歯肉退縮 i 歯周-歯内病変 a 急性症状を有する歯周疾患への対応 c 合性外傷に対する治療</p>	*中山 洋平

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/01/16 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (歯科保存学1・ 歯周治療学)	【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3) - (3) 歯周疾患の診断と治療 ①歯周疾患の症状及び全身疾患との関連を説明できる (疾患の細胞レベル、分子生物学的レベルでの説明を含む)。 ②歯周疾患の検査法、診断及び治療方針 (メンテナンス法を含む) を説明できる。 ③歯周治療の術式と適応症を説明できる。	*中山 洋平
2020/01/23 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医学総合講義 3 (歯科保存学1・ 保存修復学)	【授業の一般目標】 3年次前期で学修した保存修復学の知識を深化させるために、硬組織疾患の検査法と診断に基づいて適切な直接・間接修復法を選択し、術式に沿ってその処置に必要な前準備、必要な器具およびその手技の目的について理解する。  【行動目標 (SBOs)】 1.臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2.歯の硬組織疾患の診断に必要な検査法の種類とその目的について説明する。 3.歯の硬組織疾患の鑑別診断ができる。 4.歯の硬組織疾患に応じた適切な修復法を選択する。 5.直接・間接修復法の種類とその術式を説明する。 6.歯の硬組織疾患の修復に必要な前準備を説明する。 7.歯の硬組織疾患の修復に必要な器具についてその使用方法を説明する。 8.歯の硬組織疾患に対する修復処置の目的を説明する。  【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：①歯の硬組織疾患の種類とその原因、②コンポジットレジン修復に必要な前準備、器具、術式、③間接修復法の窩洞の特徴と術式 準備学修時間：60分 事後学修項目：配布プリントの見直し 事後学修時間：60分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：なし 学修媒体：配布プリント、マルチメディア  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 301教室  【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 2 歯・歯周組織・咬合の治療 ア 基本的術式 a 歯の硬組織疾患の治療  【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 1 歯の硬組織疾患 ア 歯の硬組織疾患の病因と病態 a 齲蝕の病因 c tooth wear<歯の損耗> d 窩洞形成法 e 象牙質・歯髄保護法 a 根面齲蝕 b 非齲蝕性硬組織疾患  【コアカリキュラム】 D 歯科医療機器 (歯科材料・器械・器具) D-1 歯科医療機器 (歯科材料・器械・器具) の特性と用途 ③診療用器械・器具の構造と特性を説明できる。 D-2 歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法 ①成形修復・予防充填用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。 ②歯冠修復・義歯用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。 ③接着・合着・仮着用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 ①歯の硬組織疾患 (tooth wear (酸蝕症、咬耗、摩耗等)、歯の変色、象牙質知覚過敏症を含む) の病因と病態を説明できる。 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3) - (1) 齲蝕その他の歯の硬組織疾患の診断と治療 ①齲蝕その他の歯の硬組織疾患 (tooth wear (酸蝕症、咬耗、摩耗等)、生活歯の変色、象牙質知覚過敏症を含む) の症状、検査法、診断及び処置法 (再石灰化療法を含む) を説明できる。 ③修復材料とその取扱い、修復法の適応を説明できる。 ④修復に必要な前処置の目的と意義を説明できる。 ⑥窩洞形成の意義と方法を説明できる。	*平山 聡司
2020/01/30 (木) 1時限 09:00～10:30	平常試験	【授業の一般目標】 15回の講義内容に対する理解度の確認 形式的評価であり、進級判定には用いない。  【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：これまでの講義内容、配布資料 準備学修時間：後期を通じて 事後学修項目：平常試験で苦手科目、内容を抽出した全内容 事後学修時間：総合試験3までの約2週間	*久山 佳代 *末光 正昌

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/01/30 (木) 1時限 09:00～10:30	平常試験	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 MCQ試験、301教室</p> <p>【学修方略（LS）】 演習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 301教室</p>	<p>*久山 佳代 *末光 正昌</p>